

郡山市に在住する外国籍家族について

NPO法人うつくしまNPOネットワーク
理事 三田真理子

▼郡山市のホームページには、“統計こおりやま～グラフで見る郡山～”が掲載されています。私は、“市政見える化データ集(人口・世帯)”をよく活用しています。国籍別外国人人口・世帯数によると2023年10月末現在、3,257人、61か国・地域の人々が郡山市に居住しています。多い順から、ベトナム、中国、韓国、フィリピン、ネパール、インドネシアと続き、アジア系住民が90%以上を占めていることに気づかされます。下記の資料をご覧ください。
<https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/71518.pdf>

▼「こおりやま日本語教室」には、ネパール出身の高校生がいます。彼女の父親がコックとして働くために、中学2年生の時に家族で来日しました。福島県の県立高校入試には、来日3年以内の外国人生徒等に係る特別枠選抜制度があり、学科試験は数学と英語だけで、あとは面接と作文で受験することができました。彼女は、あさか開成高校に合格し、学校の日本語支援に加え、こおりやま日本語教室で学習を続け、優秀な成績を取っています。学校推薦により県立会津大学コンピュータ理工学部に合格することができました。外国籍の生徒に配慮する高校受験制度が福島県にあったからこそ、彼女の念願がかない大学進学につながりました。

▼私は「国際交流の会・かるみあ」という団体でも活動しています。設立28年になり、会員が高齢化し配偶者に先立たれることがあります。国際結婚の女性の場合、日本人配偶者が行政の書類手続きなどを行っていたことから、先立たれてしまうと喪失感だけでなく、難しい手続きを自分でしなくてはならないという問題に直面することがあります。

▼国際交流の会・かるみあの日本語教室では個別に指導しており、教科書中心ではなく、生活に役立つ日本語を使えるように心掛けています。市役所に近いので、役所での手続きに同行してサポートすることもあります。郡山市にはこども医療費助成制度がありますが、申請しないと支援は受けられず、さらに申請窓口が市役所の隣にあるニコニコこども館なので、外国出身の方には手続きのハードルが高いようです。

▼日本語教室では、両親とも外国籍の家族が増えてきました。日本が少子高齢化で労働人口が減少傾向にある中で、外国籍住民の力がますます必要になると予想されています。どのような体制で外国人を受け入れていくか、環境づくりが重要になると思います。ワンストップで手続きができるような仕組みは外国籍住民だけでなく、日本人住民にとっても住みやすくなると思います。ともに暮らしやすい社会を目指したいと思います。 (2023年12月21日)